

実務経験のある教員等による授業科目一覧【美容修得者】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名
理容技術理論	4	向井美香
理容実習	23	向井美香
スキルアップⅠ（総合技術 ／スキルアップ）	1	向井美香
スキルアップⅡ（総合技術 ／スキルアップ）	1	向井美香
合 計	29	

授 科 目	業 名	理容技術理論			
担 教 員 名	向井美香	学 年	1	単 位 数	4
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	向井美香（理容所において理容師として勤務）				
授業の概要	優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、合理的な方法によって実践されなければならない。理容技術理論を学ぶ目的は美容技術の習得を容易にすることである。				
授業の到達目標	理容技術理論を体系的に理解し、技術習得において、理論的に考えて実践できるようにすることが目標である。また、国家試験の「理容技術理論」において確実に合格できるまでの実力を身に着けることが到達目標である。				
授 業 計 画					コマ数
1	理容用具	・理容と用具	・理容用具と衛生		3
2	理容用具	・理容刃物	・シザーズ	・レザー	5
3	理容用具	・クリッパー	・コーム	・ブラシ	5
4	理容用具	・ヘアアイロン	・ヘアドライヤー	・その他の器具	5
5	理容用具を主体にフォローアップ（国家試験対策）				5
6	ヘアカラーリング	・ヘアカラーの歴史・色相の原理			3
7	ヘアカラーリング	・染毛剤の種類と原理			3
8	ヘアカラーリング	・安全性と取り扱い上の注意			3
9	ヘアカラーリング	・おしゃれ染め、白髪染めの一例			5
10	ヘアカラーリング	・その他の技法			3
11	ヘアカラーリング	・ヘアカラーリングを主体にフォローアップ（国家試験対策）			5
12	ヘアデザイン	・ヘアスタイリング	・ヘアデザインの要素	・ヘアスタイル	3
13	ヘアデザイン	・ヘアスタイリングを学ぶにあたって			3
14	ヘアデザイン	・観測法			3
15	ヘアデザイン	・基本原則	・一般的手順		3
16	ヘアデザイン	・スタンダードヘアの概要			5
17	ヘアデザイン	・用具の持ち方と操作			5
18	ヘアデザイン	・スタンダードヘアのカット技法			3
19	ヘアデザイン	・スタンダードヘアのスタイル別カットシステム			3
20	ヘアデザイン	・デザインヘア			3
21	ヘアデザイン	・デザインヘアのスタイル別カットシステム			3

19	ヘアcuttingを主体にフォローアップ（国家試験対策）	5
20	ヘアcutting ・デザインヘアcutの一例 ・レディースcutの一例	3
21	ヘアセッティング ・学ぶにあたって ・ヘアセッティングの種類	3
22	ヘアセッティング ・ヘアセッティングの実際	3
23	ヘアセッティング ・レディースヘアのスタイリング	3
24	ヘアセッティングを主体にフォローアップ（国家試験対策）	5
25	シェービング ・シェービングを学ぶにあたって	5
26	シェービング ・シェービングの要件 ・基本技術と要領 ・プロセス	10
27	シェービング ・メンズフェイスシェービング ・メンズネックシェービング	5
28	シェービング ・グルーミング ・レディースシェービング	5
29	シェービングを主体にフォローアップ（国家試験対策）	5

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）	2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）	3. 出席状況 （受講意欲, 思考と演習など）
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。  
授業後はワークブック（問題集）を活用し、確実に学習する習慣をつけて欲しい。

使用テキスト

書籍名	出版社
理容技術理論①	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容技術理論②	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
ワークブック	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

- ① 国家試験に合格できる知識を確実に習得してほしい。
- ② 「理論的に思考して技術練習を行う」ことで、個々の技術を早く習得することに役立てて欲しい。
- ③ この技術理論を確実に身に付けて、理容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。

授 科 目	業 名	理容実習				
担 教 員 名	向井美香	学 年	1	単 位 数	23	
開 講 時 期	通年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	実 習	
実 務 経 験	向井美香（理容所において理容師として勤務）					
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「理容実習ⅠⅡ」及び「理容技術理論ⅠⅡ」を使用する。 理容師国家試験を必ず合格する技術力、理容師としてのスキルに必要な知識を習得するものである。					
授 業 の 到 達 目 標	理容師国家試験に合格できる技術について習得する。そして就職してからの理容師としての技術の習得を目指す。					
授 業 計 画					コマ数	
1	ミディアムカット				70	
2	ミディアムスタイル① 基礎刈				70	
3	ミディアムスタイル② 基礎刈から指間刈まで				70	
4	ミディアムスタイル③ 逆櫛、襟付け、仕上げ刈り、				70	
5	ミディアムスタイル④ セニング、整髪、				70	
6	シェービング				100	
7	国家試験練習① シェービングと顔面処置				80	
8	国家試験練習② カット及び整髪				80	
9	フリースタイル				80	
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)		
ウエイト 1		ウエイト 1		ウエイト 1		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。 授業後は教科書を活用し、確実に技術を身につけて欲しい。						

使用テキスト	
書籍名	出版社
理容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容技術理論Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
参考書又は参考資料等	
授業中に適宜、その他の資料を配布する。	
そ の 他（学生への要望等）	
① 国家試験に合格できる知識を確実に習得して欲しい。 ② 反復練習を行うことで、個々の技術を早く習得し、また技術の幅も拡げて欲しい。 ③ この技術を確実に身に着けて、理容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。	

授 科 目	業 名	スキルアップⅠ（総合技術／スキルアップ）			
担 教 員	向井美香	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後 期	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実務経験	向井美香（理容所において理容師として勤務）				
授業の概要	本授業は、理容実習で身につけた技術を、さらに熟練したレベルへ導くものである。				
授業の到達目標	理容の基礎技術が網羅されたスタンダードヘアについてより深く追求していく。ミディアムカット・ドライヤー仕上げを、他者に解説し実演できるレベルが目標。				
授 業 計 画					コマ数
1.	カット技術の確度向上（姿勢と技術） 準備、立ち位置、目線の位置、観察法（事前観察・事後観察）				1
2.	ミディアムヘア（中髪型）の構成要件と実際 分髪方法、毛髪の弾力と重み、髪質、髪量、頭の形、顔の形、				1
3.	ミディアムヘア（中髪型）の構成要件と実際 クリッパーライン、接合線、毛流（分髪、前額髪際、髪際隅部、側頭部）				1
4.	カット技術の確度向上（櫛、鋏、クリッパーの操作と運行） 基準剪髪、斜行運行・斜行剪髪、				3
5.	カット技術の確度向上（基礎刈） 直上線剪髪、直線剪髪、固定刈、すくい刈、連続刈、押し刈、指間刈、				3
6.	カット技術の確度向上（仕上げ刈） 線とぼかし、線と面、回し刈り、両手直鋏、片手直鋏、梳き刈、襟鋏、				3
7.	カット技術の確度向上（梳き刈） セニング技法、毛量調整、質感調整、毛髪の立ち上げへの応用、				2
8.	ドライヤー技術 水分量、熱量、風量、ブラシワークの原理と実際				1
9.	ドライヤー技術 面を作る（根本の矯正、高く、低く、接合部処理）				3
10.	ドライヤー技術 同じ平面で毛の流を作る				3
11.	ドライヤー技術 整髪技術（整髪料の塗布、ブラッシング、コーミング等）				3
12.	ドライヤー技術 規定時間10分での反復練習				2
13.	カット15分、セニング5分、ドライヤー10分、整髪5分				3
14.	全体を通しての総合技術レベルの確認				1

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
理容技術理論1	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容実習1	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
この教科科目は理容実習で学んだ技術を基本に、より高い技術力を身につけるものである。よって高い技術を探求していく強い気持ちが必要である。今現在の技術レベルに満足することなく研鑽して行って欲しい。		

授 科 目	業 名	スキルアップⅡ（総合技術／スキルアップ）			
担 教 員	向井美香	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後 期	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実務経験	向井美香（理容所において理容師として勤務）				
授業の概要	本授業は、理容実習で身につけた技術を、さらに熟練したレベルへ導くものである。				
授業の到達目標	理容の基礎技術が網羅されたスタンダードヘアについてより深く追求していく。ミディアムカット・ドライヤー仕上げを、他者に解説し実演できるレベルが目標。				
授 業 計 画					コマ数
1.	カット技術の確度向上（姿勢と技術） 準備、立ち位置、目線の位置、観察法（事前観察・事後観察）				1
2.	ミディアムヘア（中髪型）の構成要件と実際 分髪方法、毛髪の弾力と重み、髪質、髪量、頭の形、顔の形、				1
3.	ミディアムヘア（中髪型）の構成要件と実際 クリッパーライン、接合線、毛流（分髪、前額髪際、髪際隅部、側頭部）				1
4.	カット技術の確度向上（櫛、鋏、クリッパーの操作と運行） 基準剪髪、斜行運行・斜行剪髪、				3
5.	カット技術の確度向上（基礎刈） 直上線剪髪、直線剪髪、固定刈、すくい刈、連続刈、押し刈、指間刈、				3
6.	カット技術の確度向上（仕上げ刈） 線とぼかし、線と面、回し刈り、両手直鋏、片手直鋏、梳き刈、襟鋏、				3
7.	カット技術の確度向上（梳き刈） セニング技法、毛量調整、質感調整、毛髪の立ち上げへの応用、				2
8.	ドライヤー技術 水分量、熱量、風量、ブラシワークの原理と実際				1
9.	ドライヤー技術 面を作る（根本の矯正、高く、低く、接合部処理）				3
10.	ドライヤー技術 同じ平面で毛の流を作る				3
11.	ドライヤー技術 整髪技術（整髪料の塗布、ブラッシング、コーミング等）				3
12.	ドライヤー技術 規定時間10分での反復練習				2
13.	カット15分、セニング5分、ドライヤー10分、整髪5分				3
14.	全体を通しての総合技術レベルの確認				1

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
理容技術理論1	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容実習1	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
この教科科目は理容実習で学んだ技術を基本に、より高い技術力を身につけるものである。よって高い技術を探求していく強い気持ちが必要である。今現在の技術レベルに満足することなく研鑽して行って欲しい。		

授 科 目	業 名	ネイルⅠ				
担 教 員	当 名	旗生美由紀	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必修・選択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実務経験	旗生美由紀（実務経験なし）					
授業の概要	日本ネイリスト協会発行のテキストを使用し、指先に関する正しい知識と技術、最新のネイル理論を習得する。					
授業の到達目標	ジェルネイル検定初級、及び日本ネイリスト検定試験3級レベルの合格技術を修得する。正しく安全に技術を行うための爪や体の知識の学習は勿論、相モデルを通してサービス業としての身だしなみや心得を身につける。					
授 業 計 画						コマ数
1.	検品・道具の確認・接客マナー					1
2.	道具のセッティング・補充方法					1
3.	消毒管理・爪の削り方(ファイリング)・カット方法					1
4.	爪を美しく育むためのクリーンナップ方法					1
5.	消毒～クリーンナップまで（規定時間での練習）					2
6.	美しいカラーポリッシュの塗布方法					1
7.	消毒～カラーリングまで（規定時間での練習）					3
8.	サロンワークにおけるカラーリング方法					1
9.	ジェルネイルにおけるセッティングと用具用材・検定説明					1
10.	ジェルカラーリングの基礎手順					1
11.	技術及び知識のレベルの確認 フォローアップ					2
12.	検定におけるジェルアート					1
13.	ジェルタイム取り					4
14.	ジェル検定対策タイム取り					6
15.	アクリル絵の具を使用したアート方法					1
16.	指や爪の特性に応じジェルネイルの施術					1

17.	技術及び知識のレベルの確認 フォローアップ	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1.5	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
JNAテクニカルシステム ベーシック	NPO法人 日本ネイリスト協会	
JNAテクニカルシステム ジェルネイル	NPO法人 日本ネイリスト協会	
参考書又は参考資料等		
その他、授業中に適宜、資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
1年次には、基礎知識や基礎的技術を中心に学んでいくが、今後はこの基礎技術をベースにして高度な技術を構成していく。よって、この基礎技術が未習熟であると今後の学習に影響してくるので 確実な技術習得をしてください。		

授 科 目	業 名	ネイルⅡ				
担 教 員	当 名	旗生美由紀	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必修・選択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実務経験	旗生美由紀（実務経験なし）					
授業の概要	日本ネイリスト協会発行のテキストを使用し、指先に関する正しい知識と技術、最新のネイル理論を習得する。					
授業の到達目標	ジェルネイル検定初級、及び日本ネイリスト検定試験3級レベルの合格技術を修得する。正しく安全に技術を行うための爪や体の知識の学習は勿論、相モデルを通してサービス業としての身だしなみや心得を身につける。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	検定取得についての基礎知識 ・練習における心構え				1	
2.	基礎知識の確認 ・フォローアップ				1	
3.	衛生的なテーブルセッティング・ジェル検定中級レベルの技術工程				1	
4.	ジェル検定中級レベルの技術練習				5	
	A（安全なジェルのオフ方法）					
	B（ジェルイクステンションのリペア、正しいフォルム）					
5.	C（ジェルグラデーション・ジェルフレンチ）				3	
	ジェル検定上級レベルの技術練習					
	A（ジェルイクステンションで5本揃えたフォルム作り）					
6.	B（ジェルチップオーバーレイ）				3	
	C（ジェルデザインイクステンション）					
6.	2級検定試験内容の技術練習				3	
	A（チップ&ラップの正しい装着方法）					
7.	技術レベルの確認 フォローアップ				2	
8.	アートデザインの構成・時代にあった作品作り				2	
9.	アートの大会に向けての作品作り				3	
10.	技術競技大会・検定試験対策（技術）				2	
11.	検定試験対策（筆記）				1	
12.	検定試験で求められる技術レベルの確認				2	

13.	サロンワーク対策	1
14.	卒業作品制作	3
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1.5	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
JNAテクニカルシステム ベーシック	NPO法人 日本ネイリスト協会	
JNAテクニカルシステム ジェルネイル	NPO法人 日本ネイリスト協会	
参考書又は参考資料等		
NAILMAX（株式会社ミーティア）、NAILVENUS（株式会社 実業之日本社）		
その他、授業中に適宜、資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年次には、基礎知識や基礎的技術を中心に学んでいくが、今後はこの基礎技術をベースにして高度な技術を構成していく。よって、この基礎技術が未習熟であると今後の学習に影響するので確実な技術習得をしてください。		

授 科 目	業 名	ネイルⅢ（総合技術／ネイル1）				
担 教 員	当 名	旗生美由紀	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必修・選択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実務経験	旗生美由紀（実務経験なし）					
授業の概要	日本ネイリスト協会発行のテキストを用いて検定試験2級に合格できる技術と知識の習得を行う。					
授業の到達目標	日本ネイリスト検定2級取得を目標に、プロとしてのネイルケアの技術を修得する。また、サロンワーク、及び技術競技大会で通用するアート技術を磨く。					
授 業 計 画						コマ数
1.	2級検定に求められるネイルケア技術					8
2.	検定のテーマに沿ったアート作成					2
3.	大会レベルのアート作成					2
4.	爪の補強、修復技術					2
5.	チップ&ラップの正しい装着方法					6
6.	2級検定技術の規定時間での練習					8
7.	1級検定レベルの技術工程					2
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）		
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。						
使用テキスト						
書籍名			出版社			
JNAテクニカルシステム ベーシック			NPO法人 日本ネイリスト協会			
JNAテクニカルシステム ジェルネイル			NPO法人 日本ネイリスト協会			
参考書又は参考資料等						
その他、授業中に適宜、資料を配布する。						

そ の 他（生徒への要望等）

卒業後には、即実践できるようプロテクニクを学ぶ教科科目である。  
プロに求められる技術指導を行っていくため、技術レベルの要求だけでなく、立ち振る舞いについても指導するので、プロ意識を持って学んでほしい。

授 科 目	業 名	ネイルⅢ（総合技術／ネイル2）				
担 教 員	当 名	旗生美由紀	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必修・選択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実務経験	旗生美由紀（実務経験なし）					
授業の概要	ネイルの基礎をしっかりと学んだ後、さらに技術を磨いて修得することのできる、プロテクニクを学ぶものである。					
授業の到達目標	高度な技術であるのは勿論、アート性にも優れた完成度の高い作品を、自分で考え、作りあげることを目指す。 日本ネイリスト検定の中で最難関と言われる1級取得を目指す。					
授 業 計 画						コマ数
1.	アクリルスカルプチュアとは何か・理論					2
2.	アクリルスカルプチュアの安全な装着方法と手順					2
3.	アクリルスカルプチュアの作成					10
3.	チップオーバーレイの作成					4
3.	立体的な3Dアート・創造性を働かせる					6
3.	検定1級レベルの技術練習（規定時間での練習）					4
3.	エアブラシを使用した高度なアート技術					2
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）			3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1		ウエイト 1.5			ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。						
使用テキスト						
書籍名			出版社			
JNAテクニカルシステム ベーシック			NPO法人 日本ネイリスト協会			
JNAテクニカルシステム ジェルネイル			NPO法人 日本ネイリスト協会			
参考書又は参考資料等						
その他、授業中に適宜、資料を配布する。						

そ の 他（生徒への要望等）

卒業後には、即実践できるようプロテクニクを学ぶ教科科目である。  
プロに求められる技術指導を行っていくため、技術レベルの要求だけでなく、立ち振る舞いについても指導するので、プロ意識を持って学んでほしい。

授 科 目	業 名	エステティックⅠ				
担 教 員	当 名	池田薫	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期		通年	必修・選択	選択	授業区分	演習
実務経験	池田薫（実務経験なし）					
授業の概要	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授業の到達目標	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授 業 計 画						コマ数
1.	エステティック概論 フェイシャルケアの基礎知識					1
2.	ビデオ学習 ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・整肌ウィッグで					1
3.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・整肌ウィッグで					2
4.	エステジュール説明 ブラシピーリング・スチームタオル・整肌					1
5.	相モデル ポイントメイク落とし～ブラシピーリング～整肌					2
6.	エステティック機器概論					1
7.	相モデル ポイントメイク落とし～スチームタオル・スプレー・キッシング整肌					2
8.	相モデル ポイントメイク落とし～スプレー・キッシング・アイオニック整肌					2
9.	エステティック概論					1
10.	相モデル ポイントメイク落とし～スプレー・キッシング・アイオニック整肌					2
11.	オイルマッサージ概論					1
12.	オイルマッサージ手技 ウィッグで					1
13.	相モデル ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・スチームタオル					4
14.	相モデル ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・パター					4
15.	相モデル ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・パター・海藻パック					2

16.	相モデル ポインメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・パター・シートパック	1
17.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング塗布・クレンジング・ふき取り・スプレー・キッシング・アイオニック・オイルマッサージ・パター・スチームタオル・パック・整肌まで全行程	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
施術前に、テキストで手技手順を確認。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。		
参考書又は参考資料等		
滝川エステティックビデオフェイシャル&ボディ 日本理容美容教育センター出版エステティック		
そ の 他（生徒への要望等）		
意識せずに自然に手技ができるところまで習熟して欲しい。		

授 科 目	業 名	エステティックⅡ				
担 教 員	池田薫	学 年	1	単 位 数	1	
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習	
実務経験	池田薫（実務経験なし）					
授業の概要	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授業の到達目標	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	マッサージの基本手技 ボディケア技術 種類と特徴				1	
2.	有酸素運動・筋肉トレーニング・ストレッチングについて				1	
3.	ビデオ学習 ボディマッサージ（上肢背面） デモ				1	
4.	相モデル ボディマッサージ（上肢背面）				1	
5.	ボディマッサージ（下肢） デモ 相モデル				2	
6.	ボディマッサージ（上肢・下肢） 相モデル				2	
7.	フットケア カウンセリングシート作成				1	
8.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング				2	
9.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング・キューティクル処理・角質処理（フットパドル）・保湿				2	
10.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング・キューティクル処理・角質処理（フットパドル）・保湿				4	
11.	脱毛 ビデオ学習 デモ				1	
12.	脱毛 相モデル				4	
13.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング塗布・クレンジング・ふき取り・スプレー・キッシング・アイオニック・オイルマッサージ・パター・スチームタオル・パック・整肌まで全行程				4	

14.	ボディマッサージ（上肢・下肢） 相モデル	2
15.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング・キューティクル処理・角質処理(フットパドル)・保湿	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
施術前に、テキストで手技手順を確認。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。		
参考書又は参考資料等		
滝川エステティックビデオフェイシャル&ボディ 日本理容美容教育センター出版エステティック		
そ の 他（生徒への要望等）		
カウンセリング等でお客様の肌質を把握し、個々の肌質に合わせた技術の提供ができるようになってほしい。		

授 科 目	エステティックⅢ				
担 教 員	池田薫	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	選 択	授 業 区 分	演 習
実務経験	池田薫（実務経験なし）				
授業の概要	身体組織や器官の活動を助け身体内部の生理機能に働きかけることで新陳代謝を促し美しく健康的な状態をつくりだすさまざまな技術を理解、実践していく。				
授業の到達目標	デコルテ（胸板）の筋肉や僧帽筋への施術により血液供給、物質代謝を促進させ、離れたところからはたらきかけがフェイシャルケアの効果をさらに向上させることを実践し理解する。				
授 業 計 画					コマ数
1.	有酸素運動・筋肉トレーニング・ストレッチングについて				2
2.	ボディマッサージのポイント手技・デモ				2
3.	相モデル 背中でのマッサージにおける手の動きとポイント				4
4.	背中から首の軽擦・背筋の深めの軽擦				4
5.	背中から首全体の重手掌揉撫・背筋から肩甲骨まわりの手拳揉撫				4
6.	肩甲骨から僧帽筋の母指揉撫・首の牽引				4
7.	デコルテ全体の軽擦・肩の圧迫と僧帽筋へのつなぎ				4
8.	デコルテと僧帽筋の手拳・僧帽筋の圧迫法				2
9.	肩から僧帽筋へのらせん軽擦とつなぎ				2
10.	首の重手掌軽擦・デコルテと肩全体の軽擦				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
施術前に、テキストで手技手順を確認。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。					

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

意識せずに自然に手技ができるところまで習熟して欲しい。